

## 11月の安全指導について

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。11月の安全指導は下記のとおりです。児童が自らの安全を確保するため、一人一人が「もしも」の意識をもつことが重要です。ご家庭でもあらためてご確認ください。

### ○実施内容 **【不審者侵入時の対応を身に付けよう】**

#### ☆過去の事例

2001年6月8日、大阪教育大学附属池田小学校で児童8名が殺害され、児童13名と教員2名が負傷した痛ましい事件がありました。20余年たった今でも、ご遺族や被害者は沈痛な思いで過ごされています。学校という場でこのような事件が起き、安全についての見直しが大きく取り上げられました。

この事件を教訓とし、本校でも防犯・防災の徹底に取り組んでいます。ただ、施設の構造上、本校に関係のない人間の敷地内への侵入を完全に防ぐことは難しいのが現状です。「もしも」の時に備え、教員のみならず児童一人一人の意識を高めるため、不審者侵入時の際の安全指導も行っています。

#### ☆不審者侵入時の対応についての指導

##### 1 【校内放送を聞く】

不審者の侵入があった時には、緊急対応の開始を知らせるための放送が入る。

<放送内容> 「大きな荷物が〇〇(不審者が現れた場所)に届きました。」

##### 2 【落ち着いて行動する】

不審者の存在を感じると、危険や恐怖から、冷静でいられなくなることが想定される。教員や周りの大人の指示の重要性を確認し、「怖いからこそ、落ち着いて安全な行動をとる必要がある」ことを理解する。

##### <具体的な避難行動>

○落ち着いて、静かに待機(または安全な場所へ避難)する。

○近くにいる教員や大人の指示をよく聞く。

○室内に避難した場合には、扉の鍵を閉め、できるだけ相手から見えない場所で待機する。

##### 3 【高い声を出さない】

不審者が興奮状態にある場合、子供たちの高い声や大きな声の不審者を刺激する可能性がある。悲鳴によってさらに危険が高まったり、自分や友達の冷静さを失わせたりする場合があることを理解し、不審者を目の当たりにした時の行動を意識できるようにする。

※校外や教室外など、近くに大人がおらず、危険を知らせる必要がある場合には、大声を出して逃げる必要がある。この場合も「キャー」という高い声ではなく、「助けてー」とお腹から声を出すようにする。

日頃から  
放送をよく  
聞き、とる  
べき行動を  
判断できる  
ようにする。

### ◎普段の生活の中で、安全な行動を考える

友達と一緒に生活する中で、「これは危ない」「相手が嫌な気持ちになる」など、自分のとった行動で周りの人が困るような状況を作っていることはありませんか。人がたくさんいるところをぶつかりながら通る、座ろうとしている椅子を引いて転ばせる、人が歩いてくるところに足を出すなど、危険なことをしてはいけません。相手や周りの人のことも考えて、安全な生活をしましょう。

担当 生活指導主任 井上 愛子